

授業科目 臨床薬理学

【担当教員名】 尾崎 昌宣、高中 紘一郎		対象学年	2	対象学科	看護
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○			
【概要・一般目標：G10】 看護学科の学生に必要な薬理作用の把握と薬に対する基本的な考え方を理解させることを目的とし、薬理作用及び体内動態、薬効影響を及ぼす要因を講義する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 看護学において必要な薬理学の概念と知識を習得する。 2. 薬物の体内動態、薬効に影響を及ぼす要因についての知識を修得する。 3. 看護学において必要な、種々の病態、健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。 以下の項目に対する知識を習得し、看護医療に生かせる能力を身につける。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	薬理学総論	原理、受容体		1	講義、担当：尾崎 昌宣
2	薬理学総論	薬物代謝、吸収		2	講義、担当：尾崎 昌宣
3	薬物学各論	循環器系に働く薬物		3	講義、担当：尾崎 昌宣
4	薬物学各論	循環器系に働く薬物		3	講義、担当：尾崎 昌宣
5	薬物学各論	中枢神経系に働く薬物		3	講義、担当：尾崎 昌宣
6	薬物学各論	中枢神経系に働く薬物		3	講義、担当：尾崎 昌宣
7	薬物学各論	中枢神経系に働く薬物		3	講義、担当：尾崎 昌宣
8	薬物学各論	眼などに働く薬物		3	講義、担当：高中 紘一郎
9	薬物学各論	血液に働く薬物		3	講義、担当：高中 紘一郎
10	薬物学各論	消化器系に働く薬物		3	講義、担当：高中 紘一郎
11	薬物学各論	内分泌系に働く薬物		3	講義、担当：高中 紘一郎
12	薬物学各論	呼吸器系に働く薬物		3	講義、担当：高中 紘一郎
13	薬物学各論	炎症に働く薬物		3	講義、担当：高中 紘一郎
14	薬物学各論	抗生物質、抗癌薬		3	講義、担当：高中 紘一郎
15	試験				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		やさしい薬理のメカニズム	中原 保裕	学研	2005・2,310円
参考書		薬の地図帳 臨床薬理学	伊賀 立二 古川 裕之	講談社 メデイカ出版	2009・4,000円＋税 2008・3,400円＋税
その他の資料					
【評価方法】 期末試験で評価する		【履修上の留意点】 薬の名称、代表的な商品名、薬理作用、注意点などを関連づけて覚えてください。			